

パレスチナは今

溝口夏奈

(パレスチナ連帯アクションなごや)

2023年10月7日以降のイスラエルによるパレスチナ人へのジェノサイド(集団殺害)は2026年7月現在も一貫して続き、少なくとも73000人以上が殺されました。1948年のナクバ(大厄災、死者1万5千人以上)から今日までパレスチナの人々にとって一日たりともイスラエルの犯罪行為から解放された日はありません。オスロ合意が破綻しイスラエルは一方的にヨルダン川西岸地区とガザ地区にそれぞれ高い分離壁を建設(国際法違反)し、自由や権利を著しく剥奪されたパレスチナ住民の第2次インティファダ(民衆蜂起)が当然のごとく起きました。

それに対してイスラエルは断続的な軍事攻撃で抑圧し、2002年～2005年でパレスチナ人3,339人(うち子ども660人)、2008年(約1ヶ月間)パレスチナ人1417人、2014年(約1ヶ月間半)パレスチナ人2208人、2021年(11日間)パレスチナ人2500人以上が殺害されました。

冒頭の2023年10月7日にハマスが奇襲反撃を起こしイスラエル人1200人が犠牲となったことから、それ以降イスラエルは自国の「自衛権」を掲げて公然とパレスチナ住民を殺し続けています。この3年間、毎日犠牲者数が世界に向けて発信され、その一人一人の命がただの無機質な数字となり、ただ棒読みされるだけの報道に私たちは慣れてはいけません。その数字は7万3200もの人生そのものであり、それ以外にもガザの9割の建物が瓦礫化したその下に、未知数の犠牲者が取り残されたままです。

イスラエルはガザの約70%を掌握し(ガザの面積と人口はほぼ名古屋市と同じ)残り30%のエリアに人々は強制移動させられ、著しい過密状態下でのテント生活を強いられています。

さらにガザの人々への海外支援団体や物資等が行き渡らないようイスラエルは検問所を断続的に封鎖し、人々は慢性的飢餓と疾病にさらされ続け、季節が変わるごとに洪水、熱波、寒波による凍死などが、世界中の誰もが予想しながら誰からも手立てを打たれず、もう3度も残酷なシーズンを体験させられています。

イスラエルとアメリカは78年かけて国連や国際法を形骸化させました。特にこの3年間のジェノサイドを誰も止められなかったことで、このまま「法の支配」

から「力の支配」へと世界の秩序を変えようと躍起になっているのが今日の現状です。

しかしあの手この手で78年間パレスチナをどれほど蹂躪し続けようとも、人々の内なる尊厳、闘志が弱まることは決してなく二世三世とその魂はむしろ強く引き継がれています。また世界中の一人一人の私たちもこの約3年間のジェノサイドを目の当たりにし、歴史的なイスラエルとアメリカのパレスチナ植民地入植、占領、虐殺、民族浄化を知り、国際社会がこれらを黙認、加担してきたこと、その理由として、アメリカの国連安保理「拒否権」の行使、イスラエルの「自衛権」という大義名分、国際社会の「反ユダヤ主義」(ユダヤ人に対する偏見、差別、迫害等)に対する負い目などが横たわっていることを学び得ました。

ですがパレスチナの人々の長きにわたる大き過ぎる犠牲に対して、私たちの気づきはあまりにまだ少数であり遅々としています。この3年間でジェノサイド経済(パレスチナ大虐殺で私腹を肥やすイスラエルと取引し利潤をあげる)が静かに発展していることも決して許されることではありません。

私たちは今ものすごい勢いで人間の残虐性と国際社会の不正義を見せつけられ茫然としがちですが、パレスチナの人々の犠牲を一刻も早く終わらせるには私たち一人一人が沈黙をやめて行動を起こす必要があります。私たちの生きるこの世界に「国際法」と「ビジネスと人権」の基軸を確固たるものとし、今こそ私たちのヒューマニズムを発揮して、パレスチナの人々のナクバを終わらせ彼らの自由と権利を勝ち取る必要があると思います。

フリーガザ、フリーパレスティン！

◆行動別予定◆

【集会&デモ】

イスラエルは虐殺、占領、入植今すぐやめろ！

集会&デモ

◎日時 9月6日(日) 集会18時～デモ18時半～

場所 光の広場

【街頭宣伝】

イスラエルは虐殺、占領、入植今すぐやめろ！

○日時 8月23日(日) 18時～19時

場所 ラシック西側

【ドローン関連:街頭宣伝&抗議行動】

イスラエル製虐殺ドローンを導入するな！

○8月21日(金) 9月4日(金) 時間 12時～13時

場所 名駅前街宣 名鉄名駅入口前